台大日本語文研究第 40 期
2020 年 12 月，頁 77-105
2020-09-29 收稿，2020-11-25 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP. 202012_(40).0004

「さえ～ば」與「～ば」的不同之處
—如何表現「最低條件」—

陳昭心*

摘要

關於日語條件表現「さえ～ば」的說明，在先行研究裡，可散見「充分條件」「最低(限)條件」「唯一條件」等用語，不僅是研究者之間各用不同的用語來說明，同一研究者的用語也不盡相同。本研究的目的在於，重新檢討「さえ～ば」的句意，並比較其與「～ば」有何不同之處。

「さえ～ば」根據前件是否為後件成立之「無可取代的條件」而分為兩種狀況，但不論在哪種狀況裡都意指序列關係中最下位的條件，因此用「最低條件」這個用語來說明「さえ～ば」的句意較能凸顯其本質。

「さえ～ば」意指序列關係中的「最低條件」，所以是直接明示其為「最低條件」。而「～ば」只有在發話焦點位於前件時，會因為誘導推論的作用而讓前件被解釋為「最低條件」，所以是間接暗示其為「最低條件」。相較於「～ば」只是發話焦點位於前件時「因誘導推論而來的最低條件」，「さえ～ば」則是不論發話焦點位於前件或後件都直接明示了「序列關係中的最低條件」。因此語境裡是否存在序列性的複數條件，可做為判斷是否必須使用「さえ～ば」的依據。

關鍵詞：さえ～ば、最低條件、唯一條件、誘導推論、序列

* 國立臺灣大學日本語文學系副教授

臺灣大學學術期刊資料庫

The Difference between *Sae-Ba* and *Ba*: How to express the minimum condition?

Jaushin CHEN*

Abstract

Sae-Ba has been explained as a sufficient condition or the minimum condition or the only-one condition in different previous researches. Even the same researcher used the different terms in different studies. The aim of this paper is to find the specific character of *Sae-Ba* by comparing with the meaning of *Ba conditional sentences*.

There are two kinds of *Sae-Ba conditional sentences*, and the difference is whether the antecedent is irreplaceable or not. Both of them mean the minimum one in the scale of conditions. Therefore, it is appropriate to use “the minimum condition” to express the meaning of *Sae-Ba* essentially.

The *Sae-Ba conditional sentence* means the minimum one in the scale of conditions, so it expresses the minimum condition directly. The *Ba conditional sentence* implies the minimum condition indirectly because of invited inference only when discourse-focus is on the antecedent contextually. Therefore, the hint of using *Sae-Ba* is to see whether there is scale of conditions in the context.

Key words: *Sae-Ba*, the minimum condition, the only-one condition, invited inference, scale

* Associate Professor, Department of Japanese Language & Literature, National Taiwan University

臺灣大學學術期刊資料庫

「さえ～ば」と「～ば」の違いについて
―どのように「最低条件」を表すのか―

陳昭心*

要旨

「さえ～ば」という条件表現について、先行研究では「十分条件」、「最低（限の）条件」「唯一の（成立）条件」など、異なる用語で説明されているだけでなく、同じ研究者であっても用語の揺れが見られる。本稿では、「さえ～ば」の意味を再検討し、さらに「さえ」を含まない「～ば」条件文との違いを考える。

「さえ～ば」は、前件が後件成立の「かけがえのない条件」であるかどうかの違いによって、二種類の状況が存在しており、どちらでも序列関係にある最下位の条件を意味するため、「最低条件」という用語で説明したほうが本質的である。

「さえ～ば」は序列関係をなす複数の条件あっての「最低条件」を指しているため、直接的に「最低条件」を明示する。それに対して、「さえ」を含まない「～ば」条件文は、文脈的に発話の焦点が前件に置かれる場合にだけ、誘導推論が働き「最低条件」と解釈されるため、間接的に「最低条件」が暗示される。

「～ば」条件文が（焦点前件限定の）「誘導推論による最低条件」を意味するのに対して、「さえ～ば」は（焦点位置不問の）「序列関係あっての最低条件」を意味している。従って、「さえ～ば」の使用の手がかりは、「序列をなす複数の条件の存在」である。

キーワード：さえ～ば、最低条件、唯一の条件、誘導推論、序列

* 国立台湾大学日本語文学科准教授

臺灣大學學術期刊資料庫

「さえ～ば」と「～ば」の違いについて
―どのように「最低条件」を表すのか―

陳昭心

一、はじめに

「さえ～ば」という条件表現については、次の表 1 で示したように、研究者間で異なる用語で説明されている。それだけでなく、同じ研究者であっても用語の揺れが見られる。

表 1　「さえ～ば」に対する説明の用語の違い

「さえ～ば」	先行研究
十分条件	森田（1980） 坂原（1986） 沼田（1992） 丹羽（1995）
最低条件	沼田（1986、2009） 庵・高梨・中西・山田（2000） 蓮沼・有田・前田（2001）
最低限の条件	日本語記述文法研究会（2008）
唯一の条件	寺村（1991）
ただ一つの条件	丹羽（1995）
唯一の成立条件	中西・庵（2010）

これらの用語は、大まかに「十分条件」「最低（限の）条件」「唯一の（成立）条件」の三つに分かれており、それぞれ「さえ～ば」の異なる面のことを言っているように思われる[1]。しかしながら、「さ

[1] 丹羽（1995）は「さえ」について「仮定条件中では、主文の事態が実現するのにただ一つの条件であることを強調するという働きをする（p.487）」と述べながら、「条件文中の「さえ」は、極端の「さえ」の使用法の一つであると

臺灣大學圖書館資料庫

え～ば」と「さえ」を含まない「～ば」条件文との違いを説明しようとすると、次のような疑問点が生じる。

まず、「さえ」を含まない「～ば」条件文がそもそも十分条件を表すため、「さえ～ば」は「十分条件」を意味すると説明しても、「～ば」との違いが明確ではない。例えば、「薬を飲めば、病気が治る」という「さえ」を含まない「～ば」条件文では、「薬を飲む」が必ず「病気が治る」をもたらす、という前件が後件の「十分条件」であることを示している。したがって、「十分条件」という性質は「さえ～ば」にもあるが、「さえ」を含まない「～ば」条件文と区別する特徴とはなり得ない[2]。

いうより、十分条件であることを強調する独自の用法として独立していると見なさなければならない（p.488）」とも述べている。「さえ～ば」が「ただ一つの条件」を強調するのか、それとも「十分条件」を強調するのかは、曖昧である。

2 「さえ～ば」を「十分条件」で説明した先行研究は、注1の丹羽（1995）のほかに次のようなものが挙げられる。

森田（1980）は、「これさえあれば鬼に金棒」や「神を信じてさえいれば幸福になれるのです」や「金さえあれば何でも手に入るという考えはまちがっている」などのような例文を挙げ、「A さえ……ば……だ」という文型について、「ある一つのポイントを取り出して、“それがだめなのだから、その他はもちろんだめだ”という発想は、“そのポイントが満たされれば、他は完全に成立する”という考えにつながる。これはさらに“他はみな満たされている、残る最後の一点 A が満たされれば完全になる”という条件意識へと発展する。A の成立が十分条件となるわけである（pp.172-173、下線引用者）」と述べている。このような条件意識への発展に対する説明は、具体的にどういうことなのか、本稿では理解できないが、下線部で示されたように、森田（1980）は「さえ～ば」を「十分条件」と解釈している。

坂原（1986）は、主に（条件文中ではない）「さえ」についての語用論的考察を行っているが、注の一つとして「“さえ”は条件文の前件において、使われた条件が十分条件の中でも弱いものであり、もっと強い十分条件が存在することを強調する次の用法を持っている（p.155、下線引用者）」と述べ、「太郎さえ来れば、パーティを始められる」という例文を挙げている。下線部の指摘が示唆に富んでいるが、「さえ～ば」の中身については検討していない。

沼田（1992）は、「必要最低限の条件」という説明を挙げながらも、次のように「さえ～ば」を「十分条件」と説明している。

①辞書があれば読める。
②辞書さえあれば読める。

条件文の中の**さえ**は特別な働きをする。例②はまず①のように「辞書があれば読める」を表の意味とする。しかし**さえ**があることによって「辞書があれば、他の物がなくても読める」あるいは「辞書だけあれば読める」という意味になる。つまり条件文（＝前件）の後に続く文が表す事柄（＝後件）を成立させるのに、とりたてられる要素が必要最低限の条件であるという意味を表す。あるいは、それがあれば十分で、他の同類の要素は必要ではないという意味になる。この**さえ**を**十分条件**の**さえ**と

臺灣大學語言學研究所

次に、「最低条件」という説明で「さえ～ば」の意味を表すことができるのかと考えると、これもまた疑問点が生じる。なぜなら、「さえ」を含まない「～ば」条件文も「最低条件の意味を持ちやすい（前田 1995）」とされているからである[3]。そうだとすると、「さえ」を含まない「～ば」条件文がどのような状況で最低条件の意味を持ちやすいのかということを解明しなければ、「さえ～ば」は「最低条件」を意味すると説明しても、「～ば」との違いが明確ではない。

さらに、「唯一の条件」という説明を採用している先行研究もあるが、なぜ「最低条件」ではなく「唯一の条件」という用語を使用しているのだろうか。両者の中身が異なるのなら、どこが異なっているのか、そしてどちらのほうがより本質的なのか、といった疑問点も生じる。

このように、「さえ」を含まない「～ば」条件文との違いを考慮に入れて「さえ～ば」の意味を説明しようとすれば、「さえ」を含まな

呼ぶ。
例　（a）これ**さえ**あれば大丈夫だ。
（b）ルール**さえ**覚えればゲームに参加できます。
（c）材料**さえ**あれば簡単に作れます。
（d）君**さえ**いれば幸せだ。
注 1　**だけ**も条件文の中では、**十分条件**の**さえ**とほぼ同じ意味を表す場合がある。
注 2　この**さえ**が条件文の中に現れて、「その場合にはいつも必ず～する」のような意味になることがある。
例　（e）彼は暇**さえ**あれば練習している。
〈沼田 1992:16　通し番号、下線引用者〉

沼田（1992）における「とりたてられる要素が必要最低限の条件であるという意味を表す。あるいは、それがあれば十分で、他の同類の要素は必要ではないという意味になる」という叙述から見ると、「必要最低限の条件」と「十分条件」の両方が併存するように見えるが、片方の「十分条件」の「さえ」と呼んでいる。

[3] 前田（1995）はバ、ト、ナラ、タラの四形式の使い分けを論述しているが、次のように指摘している。
……バのみが使える場合には、「～さえ～すれば」という形で最低条件を表わす場合がある。バは、「さえ」がなくても、最低条件の意味を持ちやすい
（f）話せばわかる。
しかし、これは、タラやナラでも不可能ではないので、バが一番ふさわしいとしても、バのみの用例とは言えない。
（g）あなたさえ承知してくれ｛れば／たら／るなら｝、問題はなくなる。
〈前田 1995:489　通し番号〉

臺灣大學學術期刊資料庫

い「～ば」条件文がどのような状況で最低条件の意味を持ちやすいのかということを解明しなければならないが、その前にまず「さえ～ば」が意味する「最低条件」の内実を見極めなければならない。そこで、本稿では、「さえ～ば」の意味を改めて検討してから、「～ば」との違いを考えたい。

二、「さえ～ば」の意味

「最低条件」あるいは「最低限の条件」といった用語で「さえ～ば」を説明した先行研究の中で、その「最低条件」の中身を説明しているものに沼田（1986、2009）と日本語記述文法研究会（2008）が挙げられる[4]。また、丹羽（1995）は「最低条件」という用語ではなく「ただ一つの条件」や「十分条件」を使用しているが、「さえ～ば」の中身を説明しているため、ここで一括して検討しておきたい。

（一）沼田（1986、2009）

沼田（1986）は、「さえ」には「意外」の「さえ$_1$」と「最低条件」の「さえ$_2$」があるとして、それぞれの統語論的特徴と意味論的特徴を分析している。そして、「さえ$_2$」について、(1)を挙げ、(2）と同義であるとし、次のように述べている。

（1）社宅さえあれば勤める。

（2）社宅だけあれば（それで十分だから）勤める。

〈沼田 1986:182-183〉

……「社宅」という自者を肯定し、それ以外を否定しているわけである。そして全体として、後件を成立させる条件として、自者が必要であり、他者は不要であるというのである。そこで、

[4] なお、蓮沼・有田・前田（2001）は、主にバ、ト、ナラ、タラなどのような条件表現を取り上げており、「さえ～ば」については、「バは「さえ」と共に使って「最低条件」を表す（p.3）」という説明と「この薬を飲みさえすれバ、気分がよくなるでしょう（p.3）」という例文を挙げるにとどまっている。一方、庵・高梨・中西・山田（2000）は「最低条件」の中身を説明していないが、「～ば」条件文の性質から「さえ」との共起しやすさを言及しているため、かなり示唆に富んでいる。けれども、その記述には原理的な繋がりが論述されていないため、改めて論考する余地が残されている。本稿では、その原理的な繋がりを後半部で論述する。

臺灣大學學術期刊線上閱讀

自者が「勤める」という後件成立のための最低条件であるという意味を持つ。（中略）……そこで、上のような「さえ」を最低条件の「さえ$_2$」とし、その意味を次のように示す。

（3）さえ$_2$：　主張・断定・自者肯定

か　つ

含み・断定・他者否定不要

〈沼田 1986:183　通し番号、下線原文〉

このように、沼田（1986）では、「最低条件」の「さえ～ば」を「自者肯定＋他者否定不要」としているのである。

ところが、沼田（2009）になると、異なる例文と説明が見られる。沼田（2009）は次の（4）を挙げて「さえ$_2$」を説明し、また「さえ$_2$」の意味についても沼田（1986）と違う結論を示している。

……「さえ$_2$」は条件節の中にあり、その条件節は主節で述べられる後件成立のための「最低条件」として解釈される。

（4）彼さえ$_2$仲間にすれば、プロジェクトは成功する。

（4）の「さえ$_2$」が直前焦点をとると解釈する場合、「さえ$_2$」のとりたてる「自者」は「彼」であり、「他者」は「彼以外」になる。（4）の意味は次のように解釈できる。

（5）a 彼を仲間にすれば、プロジェクトは成功する。

b 彼以外を仲間にすれば、プロジェクトは成功する。

c 彼を仲間にすることは、プロジェクトが成功するための最低条件である。

（5b）（5c）は多少冗長だが、要は次のようなことである。「プロジェクトが成功する」条件となるのは「彼を仲間にすること」（5a）、あるいは「彼に加えて彼以外を仲間にすること」、「彼に代えて彼以外を仲間にすること」（5b）であり、後二者は「彼を仲間にすること」より強力な条件となる[5]（5c）。そして（5b）

[5] （5c）から当然のことだが、「彼に代えて彼以外の人を仲間にする」際の「彼以外」に「彼」より条件として劣る人は含まれない。

〈沼田 2009:191　原注、通し番号〉

臺灣大學學術資料庫

（5c）から当然の帰結として、「彼を仲間にする」条件を満たせば、「彼以外を仲間にする」必要はないことになる。

〈沼田 2009:176-177　通し番号、下線引用者〉

上述の説明は、下線部に注意されたい。すなわち、「彼以外を仲間にすれば、プロジェクトは成功する」という（5b）には状況 1「彼に加えて彼以外を仲間にすること＝[彼＋彼以外]を仲間にすること」と状況 2「彼に代えて彼以外を仲間にすること＝[彼がいない＋彼以外]を仲間にすること」、この二つの解釈があるわけである。

「さえ $_2$」についての用例と説明が沼田（1986）と異なっているほかに、沼田（2009）は、「さえ $_2$」の意味を次のように示している。

（6）「さえ $_2$」主張：断定・自者―肯定
含み：断定・他者―不要
二次特徴：「肯定」「不要」の判断は後件成立の条件として　〈沼田 2009:177-178〉

つまり、「さえ $_2$」は、沼田（1986）では「他者否定不要」、沼田（2009）では「他者不要」となるわけである。

沼田（2009）が挙げた例から言うと、「さえ～ば」の意味の解釈として実は（7）のように二つの種類があることがわかった。ただ、沼田（2009）ではそれについてさらに取り上げていない。いわゆる「最低条件」の中身を分析するため、以下、その二種類の状況を図で示してみる。

（7）「彼さえ仲間にすれば、プロジェクトは成功する」
状況 1：[彼＋彼以外]を仲間にしても、成功する。
状況 2：[彼がいない＋彼以外]を仲間にしても、成功する。

臺灣大學學術期刊資料庫

状況 1：「彼（A）」はかけがえのない条件である		
強い条件	A＋B＋C	
↕	A＋B	
弱い条件	A	さえ仲間にすれば、成功する。

図 1

状況 2：「彼（A）」はかけがえのない条件ではない		
強い条件	C	
↕	B	
弱い条件	A	さえ仲間にすれば、成功する。

図 2

上記の比較でわかるように、状況 1 では「彼（A）」が実はプロジェクトの成功への「かけがえのない条件」、核心的な条件だと考えられる。それに対して、状況 2 では「彼（A）」を仲間にしなくても、A よりもっと強い条件としての B や C を仲間にすればプロジェクトは成功する、ということになる。

おそらく、図 1 と図 2 で示したように、状況 1 でも状況 2 でも「彼（A）を仲間にする」ことが条件の序列の中で最下位にあるという共通点があるため、沼田（2009）では 2 タイプの状況を一括して「最低条件」を意味すると説明しているように思われる[6]。

[6] 「さえ」の語彙的機能と条件文中に生じた解釈については野口・原田（1996）が詳しい。野口・原田（1996）によると、「社宅さえあれば、勤める」というような文は、「「社宅があること」が「勤める」ための条件のうちで、最低位に位置するという含みがある（p.148）」、「「さえ」のスコープが文全体に及ぶことによって、とりたてられる要素は前件で表現される条件命題全体となり、それが「さえ」によってある序列上の最低位に位置付けられることになる（pp.159-160）」という。

臺灣大學學術期刊

ただ、沼田（2009）のように「さえ～ば」は「最低条件」を意味すると説明されていても、依然として「最低条件の意味を持ちやすい（前田 1995）」「～ば」条件文との違いが不明である。

（二）日本語記述文法研究会（2008）

「さえ～ば」と「～ば」の違いを（わずかであるが）説明しようとしているものとしては、日本語記述文法研究会（2008）が挙げられる。日本語記述文法研究会（2008）は（8）を挙げて、（8’）との違いを以下のように説明している。

（8） サインさえしてくれれば、あとは全部こちらでやります。

（8’）サインをしてくれれば、あとは全部こちらでやります。

〈日本語記述文法研究会 2008:88〉

……この例では、「あとは全部こちらでやる」条件として、最低限、「サインをする」ことが必要であることを述べている。つまり、「サインをする」以外に、「住所を書く」など、ほかのことをしてくれてもよいことを暗示している。と同時に、「住所を書く」など、ほかのことをするだけではだめで、「サインをする」ことが絶対必要だということも暗示している。

「さえ」を用いない次の文では、「あとは全部こちらでやる」条件が「サインをする」ことだと述べているだけで、ほかのことをしてくれることは考えられていない。

〈日本語記述文法研究会 2008:90　下線・波線引用者〉

この説明によると、（8）は、先述の状況 1 のタイプに属する（図 3）。それに対して、「さえ」を含まない（8’）は、図 4 となる。

臺灣大學學術期刊資料庫

状況 1：「サインをする」ことはかけがえのない条件である

強い条件　サイン＋住所
　　↕
弱い条件　サイン　　さえ～ば、あとは全部こちらでやる。

図 3

「さえ」を含まない「～ば」条件文

（序列なし）
サインをする　　～ば、あとは全部こちらでやる。

図 4

日本語記述文法研究会（2008）は、(8)（8'）の説明に引き続き、次のように述べている。

……順接条件節の中で最低限の条件を表す「さえ」の場合は、満たしてくれればありがたいという条件から、最低限の条件までが序列として考えられていることが多い。

(9) の例についていうと、「数日間は大丈夫」な条件として、ごはんのように、あればありがたいものから、水のように、最低限必要なものまでが序列として考えられている。

(9) 水さえあれば、数日間は大丈夫だ。

【あればなおよいもの】　　【最低限必要なもの】

○ → ○ → ○ → ○
ごはん　乾パン　ジュース　水

(9) では、「水」を最低限の条件として示すことによって、「ジュース」や「ごはん」があればなおありがたいことを暗示

臺灣大學學術期刊資料庫

すると同時に、「水」がなければ「数日間は大丈夫」だという帰結にならないことを表している。

〈日本語記述文法研究会 2008:90　通し番号、下線引用者〉

この説明は、曖昧なところがあるように思われる。原文で示された図を見ると、どちらかと言うと状況 2 のタイプ（図 6）に見えるが、下線部の説明（「水」がなければ「数日間は大丈夫」だという帰結にならない）によると、実は状況 1（図 5）と解釈されたほうが良いようである。

状況 1 と解釈された場合：「水」はかけがえのない条件である

強い条件	水＋ジュース＋乾パン＋ごはん	
↕	水＋ジュース＋乾パン	
	水＋ジュース	
弱い条件	水	さえあれば、数日間は大丈夫。

図 5

状況 2 と解釈された場合：「水」はかけがえのない条件ではない

強い条件	ごはん	
↕	乾パン	
	ジュース	
弱い条件	水	さえあれば、数日間は大丈夫。

図 6

日本語記述文法研究会（2008）は「さえ～ば」と「～ば」の違いを説明しようとしていたが、「さえ」を含まない「～ば」条件文の「最低条件の意味を持ちやすい（前田 1995）」ということについては考えていない。上記の（8’）の説明の波線部で示されたように「ほか

臺灣大學學術期刊資料庫

のことをしてくれることは考えられていない」のであれば、図 4 で示したようにほかに序列関係をなす条件はないというわけで、(8')のような「～ば」条件文は「最低条件」の意味を持たないはずである。そうだとすると、「さえ」を含まない「～ば」条件文の持ちやすい「最低条件」とは何なのかという疑問点は依然として残されている。

（三）丹羽（1995）

丹羽（1995）では、次の（10）（11）を挙げ、「やる気があれば」「当選すれば」でも「後件の十分条件を表すが、「さえ」があるとそれで十分だということが強調され、他の条件は不要だという含みが強くなる（p.487）」と述べている。

（10）やる気さえあれば、やっていけるよ。

（11）当選さえすれば、選挙運動に使った金はすぐに戻る。

〈丹羽 1995:487〉

丹羽（1995）によると、例えば（10）では、「実力がある」とか「周りの援助がある」などと比べて「やる気がある」ことが十分条件として考えられるものの中では「周辺的なもの（p.487）」である。「前件が後件の条件としては周辺的であるにも拘わらずそれで十分だということで、前件を強調するような意味合いが生じるのである（p.488）」という。

ところが、丹羽（1995）はその後また（12）（13）を挙げ、「前件が後件の条件として周辺的なものであるとは言えない例もある（p.488）」と述べている。

（12）味さえ良ければ、高くても買うよ。

（13）勉強さえしていればそれでいい。　〈丹羽 1995:488〉

このように、「さえ～ば」の前件が周辺的な条件だと統一的に説明できないため、丹羽（1995）は結局、「条件文中の「さえ」は、極端の「さえ」の使用法の一つであるというより、十分条件であることを強調する独自の用法として独立していると見なさなければならない（p.488）」と結論づけている。

臺灣大學學術期刊資料庫

丹羽（1995）の内容をまとめると、つまり、「さえ～ば」には「周辺的な条件」とそうではないものと、二つの種類がある。けれども、極端を表す「さえ」の意味から二種類の「さえ～ば」を説明しきれないため、「さえ～ば」の「さえ」は極端を表す「さえ」とは別にして、十分条件を強調するという独立した用法を持つ、というわけである[7]。

丹羽（1995）の例を前述の状況 1 や状況 2 の図にしてみると、周辺的な条件である「さえ～ば」は状況 2 の図 8 となり、周辺的な条件ではない「さえ～ば」は状況 1 の図 7 となる。

状況 1：「味が良い」ことはかけがえのない条件である

強い条件	味が良い＋安い	
↕		
弱い条件	味が良い	さえ～ば、買うよ。

図 7

状況 2：「やる気」はかけがえのない条件ではない

強い条件	周りの援助	
↕	実力	
弱い条件	やる気	さえあれば、やっていけるよ。

図 8

[7] このような極端の「さえ」と「さえ～ば」の「さえ」の二つに分けた捉え方は、沼田（1986、2009）による意外の「さえ$_1$」と最低条件の「さえ$_2$」の分け方と結果的に同じだと言える。ただ、野口・原田（1996）の説明で言うと、「「意外」の用法であれ、「最低条件」の用法であれ、常に量的解釈が付随する。従って、「さえ」はそれ自身で量的解釈を生み出す語彙的な力を持っているものと考えられる（p.151）」ということなのであるから、2 つの「さえ」は序列を仮定する解釈（すなわち量的解釈、p.149）という原理で一致している。

（四）「唯一の条件」なのか「最低条件」なのか

ここまで見てきた「さえ～ば」についての説明をまとめると、「さえ～ば」は条件の序列における最下位のものを指しており、しかもその中身には二種類の状況が含まれており、その二種類の違いは前件が後件成立の「かけがえのない条件」であるかどうかというところにあることがわかった[8]。

さて、以上のことをもとにして、「さえ～ば」の意味が「唯一の条件」と説明されることは適切であるかどうかを検討する。

「唯一の条件」という用語はそもそも複雑なところがあるように思われる。「唯一の条件」と「最低条件」の違いについて、次の表 2 で示してみる。

表 2　「唯一の条件」と「最低条件」の違い

唯一条件		序列なし	A	～ば　OK （なければ ダメ）	A＝唯一条件
最低条件	状況 1	序列あり	A+B+C A+B A	さえ～ば　OK	A＝かけがえのない条件
	状況 2	序列あり	C B A	さえ～ば　OK	A≠かけがえのない条件

[8] なお、「さえ～ば」はどういう場合に状況 1 の読みが出て、どういう場合に状況 2 の読みが出るのかというと、(h) のように「相手の想定内の条件の一部だけでも成り立つ」と話し手が主張する場合は、状況 1 の読みが出るのに対して、(i) のように「相手の想定外の条件も成り立つ」と話し手が主張する場合は、状況 2 の読みが出る。

(h) 太郎：才能と努力がそろえば、成功するだろう。
　　花子：努力さえすれば、成功するのよ。……（状況 1 の読み）

(i) 太郎：才能と努力がそろえば、成功するだろう。
　　花子：運さえあれば、成功するのよ。　……（状況 2 の読み）

臺灣大學博碩士論文資料庫

先述の二種類の「さえ～ば」は、どちらでも必ず前件がいくつかの選択肢のある序列関係になる。したがって、「唯一の条件」という用語が「ほかの選択肢がない」ことを意味するのなら、「さえ～ば」の二種類の状況はどちらも当たらない[9]。

しかしながら、「唯一の条件」という用語が「かけがえのない条件」と拡大解釈されるのなら、状況 1 は「唯一の条件」とも言えそうであるが、状況 2 は「唯一の条件」とは言えない。ただ、状況 2 の序列関係に対して、見方を変えれば、もしかすると次の図 9 のような解釈があるかもしれない。そうだとすると、状況 2 であっても A の能力値そのものが「かけがえのない条件＝唯一の条件」と言えそうであり、結局状況 2 は状況 1 との違いが小さくなる。（つまり、状況 1 のほうが優勢的な解釈となりやすいのである。）

けれども、「やる気さえあれば、やっていけるよ」という例文のような場合は状況 1 と解釈されにくいのも確かであるため、二つの状況の「さえ～ば」にはやはり違いがある。

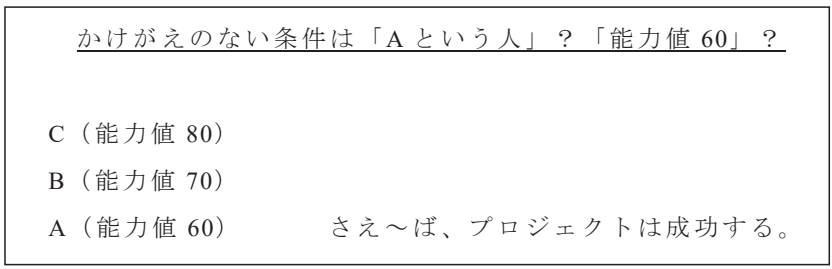


図 9

このように、「唯一の条件」という用語自体には曖昧なところがあるため、「唯一の条件」という用語で「さえ～ば」の意味を説明する

9 邢（2001）は、「検験唯一条件的標準、是“没有這個条件就不行、有了這個条件就足夠”（p.97）」と述べている。前者の「これがなければダメ」は「必要条件」、後者の「これがあれば OK」は「十分条件」であると考えられる。つまり、「唯一の条件」は「必要かつ十分」条件を意味するのである。

臺灣大學語言學研究所

のは誤解を招きやすいと考えられる。「さえ～ば」の意味は必ず条件の序列関係から生じているのだから、「最低条件」という用語で説明したほうが本質的であろう[10]。

以上、「さえ～ば」が意味する「最低条件」の内実を検討した。それでは、「さえ～ば」と、「最低条件の意味を持ちやすい（前田 1995）」とされる「～ば」条件文との違いは何であろうか。以下、「さえ」を含まない「～ば」条件文はどのような状況で最低条件の意味を持ちやすいのかということを考察してから、「さえ～ば」と「～ば」条件文の違いを分析する。

三、「～ば」の特性

蓮沼・有田・前田（2001）は、（14）を挙げて次のように述べている。

---

10 「さえ～ば」を「唯一の（成立）条件」と説明した寺村（1991）と庵・中西（2010）は、それぞれ次のように簡単な記述にとどまっている。

「X サエ P」が条件節になっているときは、「X について P」であることが、後の主節が表わす事態実現の唯一の条件であることを強調していう効果をもつ。

（j）ひまさえあれば仕事場にこもっている。

（k）海に近い五合庵では、その気になりさえすれば、魚は手に入れやすい土地柄なのに、

わがために漁りし鮒をいなたきて
おとしもつけず食しにけるかも

と、たった一言フナが登場するのみで、僧籍にある身の、食事はやはり精進料理であったようだ。（平野雅章　朝日新聞 1980.10.12）

（l）「入りさえよければ、こんごは定期的に」と同寄席は、落語ファンをくすぐっている。（朝日新聞 1976.7.4）

〈寺村 1991:109　通し番号、下線引用者〉

上記の寺村（1991）の 3 例は（j）（k）と（l）を分けて考える必要があるように思われるが、「唯一の条件」と説明した理由は示されていない。

（m）お湯さえあれば、ラーメンが食べられる。

（n）雨さえやめば、試合が再開できる。

A さえ～ば B

・B の成立に必要なのは A だけだ

・「英語さえ話せれば、あの学校の英語教師になれる」という文は、「あの学校の英語教師になるために他は必要なく、必要なのは英語が話せることだけだ」という意味で、唯一の成立条件を強調する。

〈庵・中西 2010:31　通し番号、下線引用者〉

庵・中西（2010）の 3 例は、すべて状況 1 に属すると考えられる。この点も、「さえ～ば」の解釈として状況 1 のほうが優勢的であることに反映されている。「唯一の条件」という用語で「さえ～ば」を説明しようとした理由はここにあったのかもしれない。

臺灣大學學術期刊論文

（14）「掃除をしてくれれば、お小遣いをあげる」

……この文には、「そのかわり、掃除をしない場合は小遣いをあげない」という「裏の意味」があります。これは、条件文が表す「暗示的な意味」の一つですが、特に、バの条件文の場合には、この「裏の意味」が強く表されます。

〈蓮沼・有田・前田 2001:4〉

つまり、（14）の用例はいわゆる「誘導推論」が起こるため「裏の意味」が生じるわけで、「～ば」条件文は誘導推論を引き起こしやすいとも言える[11]。

一方、既に注 3 で挙げたが、前田（1995）は、「～ば」は最低条件の意味を持ちやすいと指摘している。

ここまで来ると、「～ば」条件文の特性を 2 点まとめることができる。

（15-1）「～ば」の特性①：「誘導推論」を起こしやすい

（15-2）「～ば」の特性②：最低条件の意味を持ちやすい

注意されたいのは、この 2 者の繋がりである。それについて、坂原（1985）に示唆に富む記述がある。

（16）300 円持っていれば、1 個 70 円のリンゴは 2 個買える。

（17）―300 円持っていれば、1 個 70 円のリンゴはいくつ買えますか？

―2 個買えます。 〈坂原 1985:112〉

上の 2 例を挙げている坂原（1985）は、「論理的に真である条件文も、後件が前件に対する部分的解答であるときには否定されることがある（p.112）」と指摘しており、つまり、普通の判断であれば、（17）の答えにバツをつけるのが一般的である。一方、次のようにも述べられている。

（18）―いくら持っていれば、70 円のリンゴが 2 個買えるでしょうか？

[11] 「P ならば Q」から「～P ならば～Q」と推論してしまうことを「誘導推論」という。坂原（1985）などを参照。

臺灣大學學術期刊資料庫

—300 円持っていれば、70 円のリンゴが 2 個買えます。このときは、前件は後件成立のための最小の条件と解釈される。したがって、（18）の答えは次のような誘導推論を引き起こす。

（19）300 円持っていなければ、70 円のリンゴ 2 個買えない。

（18）の答が奇妙だと思った人は、実は（19）を奇妙だと思ったのである。前件が後件成立の最も弱い条件であるとは、これ以上弱い前件を持ってくれば、条件文はもはや成立しないということである。これが誘導推論を引き起こす原動力である。先に述べたように、条件文は一般的には前件の限定をうけた後件の断定である。しかし、（18）の返答に使われている条件文は、後件が成立するための限定を断定しており、焦点は前件に移っている。

〈坂原 1985:113-114　通り番号、下線引用者〉

本稿で注目したいのは、（17）（18）の 2 例の対照である。（17）は、疑問詞が後件にあるため発話の焦点が後件にある。それに対して、（18）は、疑問詞が前件にあるため発話の焦点が前件にある。普通なら、（17）（18）は次の（17’）（18’）のように答えるのが一般的である。

（17’）Q：300 円持っていれば、1 個 70 円のリンゴはいくつ買えますか？

A：（最多で）4 個買えます。

（18’）Q：いくら持っていれば、70 円のリンゴが 2 個買えるでしょうか？

A：（最少で）140 円持っていれば、70 円のリンゴが 2 個買えます。

この 2 例を比較すると、違いが分かる。焦点が後件にある（17’）はただ条件文の「十分条件」の性質が直感的に働き、そして、最大限の後件に帰結する。「300 円持っていないと、70 円のリンゴが〇〇個買えない」という誘導推論は起こらない。それに対して、焦点が前件にある（18’）は「〇〇円持っていないと、70 円のリンゴが 2 個

臺灣大學學術期刊資料庫

買えない」という誘導推論が起こっている。

このように、焦点が前件にある場合は、「誘導推論」が働き、前件が後件の「最低条件」と解釈されるのである。したがって、「さえ」を含まない「～ば」条件文は焦点が前件にある場合のみ「誘導推論」を起こしやすく（「～ば」の特性①）、その結果、「最低条件」の解釈をされやすく（「～ば」の特性②）なるのではないだろうか。つまり、この二つの特性は実は連動したものなのである。

以上のことをふまえて、庵・高梨・中西・山田（2000）における「～ば」条件文の説明を検討してみよう。

……「～ば」は、後件の成立が望まれているという文脈で、そのためにどんな前件が必要かを述べるような文（**前件に焦点のある条件文**）には、最もふさわしい形式です。

（19）A：どうすれば、服が安く買えますか。

B：バーゲンの時期まで待てば、安く買えますよ。

…（中略）…

上で述べた、前件に焦点のある条件を表す用法を持つことと関連することですが、「～ば」の文では後件に望ましいことがらが来ることが多く、望ましくないことがらの場合は「～ば」は用いにくくなります。

（20）徹夜｛？すれば／○すると／○したら｝、体調が悪くなります。

逆に、前件に「さえ」などを伴って、後件が成立するための最低条件を示す用法は、「～ば」にしかありません。

（21）お金さえ｛○あれば／×あると／？あったら｝、遊んで暮らせる。

〈庵ほか 2000:222-223　通し番号、下線・波線引用者〉

本稿では、上記の言う「～ば」が「前件に焦点のある条件文」に最もふさわしいという指摘については異論がない。けれども、「～ば」条件文に必ず前件に焦点があるというわけではないことに注意されたい。（17）のように、「～ば」条件文でも焦点が後件にあることが

臺灣大學學術期刊資料庫

ある。従って、いわゆる「最低条件」の意味を持ちやすいというのは、焦点が前件にあることによる。

また、蓮沼・有田・前田（2001）の説明を顧みると、発話の焦点がどこに置かれるのかがポイントになるのではないかと考えられる。実際、蓮沼・有田・前田（2001）で挙げた（14）「掃除をしてくれれば、お小遣いをあげる」という例文を、文脈の中で考えると、おそらく、次の（22）のように発話の焦点が前件に置かれることから、「誘導推論」が引き起こされ「最低条件」と解釈されるのではないだろうか。

（22）子：ねえ、お母さん、お小遣いちょうだい。
　　母：掃除してくれれば、あげるよ。

以上のことをまとめると、つまり、次のようになる。

（23-1）「～ば」条件文は焦点が前件にあることもあれば、後件にあることもある。

（23-2）焦点が前件にある場合は、「誘導推論」が引き起こされる。

（23-3）それと連動的に、前件は後件成立のための最低条件と解釈される。

四、「さえ～ば」と「～ば」の違い

では、発話の焦点が前件にある「～ば」条件文が「最低条件」の意味を持つのであれば、なぜ「さえ～ば」という表現にも出番があるのであろうか。

「さえ～ば」が意味する「最低条件」は、先述のように、条件の序列関係から生じるものである。すなわち、次のようになる。

（24-1）序列関係をなす複数の条件が想像される文脈にだけ、「さえ～ば」が使用される。

（24-2）「さえ～ば」は、「さえ」が前件そのものを序列関係の最下位に位置付けるため、前件が後件の「最低条件」であることを明示する。

つまり、「～ば」条件文は文脈的に発話の焦点が前件に置かれる場

臺灣大學學術期刊資料庫

合にだけ、誘導推論の作用を通して間接的に「最低条件」の意味が暗示される。それに対して、「さえ～ば」は序列関係をなす複数の条件が想像される文脈にだけ使用されるため、直接的に「最低条件」の意味を明示するのである。

（25）　「～ば」：誘導推論による最低条件
　　「さえ～ば」：序列関係あっての最低条件

確かに、文脈抜きの場合は、多くの「さえ～ば」の例文を「～ば」だけで表現することが可能である。次に挙げた先行研究における「さえ～ば」の例文の一部を例として見れば、いずれも「～ば」だけで表現できる。（原例は「さえ～ば」のみ。本稿では比較するため「が／∅」を入れる。）

（26）癌も早期に発見さえ／∅できれば、ほとんど治すことができます。　〈沼田 1992:16〉

（27）天候さえ／が回復すれば、すぐにも救援隊を送る予定です。　〈沼田 1992:16〉

しかし、正確に言うと、「さえ～ば」には「序列関係をなす複数の条件」が想像される文脈が必要である。

（26’）（皆さんはおそらく癌を不治の病、患うと死に至ると思っているかもしれないが、実は「最新の手術＞新薬＞……＞早期発見」など考えられており）
　　癌も早期に発見さえできれば、ほとんど治すことができます。

（27’）（救援要員の確保、救援物資の確保、……などなど複数の条件がそろっており、あとは）
　　天候さえ回復すれば、すぐにも救援隊を送る予定です。

また、注意されたいのは、「さえ～ば」が焦点前置の文脈にだけ「最低条件」を表すというわけではないことである。実際、「さえ～ば」は発話の焦点が後件に置かれ、前件が「序列関係あっての最低条件」

臺灣大學學術期刊資料庫

を表すこともあるのである[12]。

例えば、寺村（1991）の（j）（k）（注 10 を参照）における「さえ～ば」が挙げられる。（j）も（k）も、発話の焦点が後件に置かれている。（j）「ひまさえあれば仕事場にこもっている」という例文は、「勤務時間→仕事場にこもっている」「休憩時間→仕事場にこもっている」「ひま→仕事場にこもっている」といった「序列関係」が想像されており、結局「ひまさえあれば」という前件が「頻繁に」の意味になる。（k）の「その気になりさえすれば」の使用も、「釣りをしよう→魚が手に入る」「魚を食べたい→魚が手に入る」「その気になる→魚が手に入る」といった「序列関係」が想像されており、結局「いつでも」の意味になるのである。

このように、「ひまさえあれば」や「その気になりさえすれば」といった表現は、その「さえ～ば」が「序列関係あっての最低条件」を表すことが変わらない。つまり、「さえ～ば」は発話の焦点が前件にあるものもあれば、後件にあるものもある。どちらでも「序列関係あっての最低条件」を意味することが変わらない。ただ、「ひまさえあれば」「その気になりさえすれば」のような発話の焦点が後件にある場合は、「序列関係」の原理が一般の「さえ～ば」と同じでありながら、意味的に「頻繁に」や「いつでも」と解釈されるようになり（慣用表現に近くなり）、文全体の条件性が低くなることに注意されたい。それに対して、（26'）（27'）のような発話の焦点が前件にある「さえ～ば」は、文全体の条件性が高いと言える。

以上をまとめると、「さえ～ば」と「～ば」の違いは、（25）のほ

[12] 「さえ」を含まない「～ば」条件文には前述のように、発話の焦点が前件にあるものと後件にあるものがある。ここで言いたいのは、「さえ～ば」条件文にも、発話の焦点が前件にあるものと後件にあるものがあるということである。ここで言う「さえ～ば」文の発話の焦点と、とりたて詞「さえ」による取り立て効果（それも一種の焦点と言える）は、違う次元のものである。序列をなす複数条件の中から最低条件を取り立てるという「さえ（～ば）」の作用は、ある意味での「焦点づけ」と考えられるが、後述の「ひまさえあれば……」のような慣用表現の場合は、「ひまさえあれば」という成分自体に最低条件として取り立てられたものがある、と同時に、「ひまさえあれば……」という発話全体の焦点が後件の「……」にある、という考えである。

かに、もう一つ補足説明として挙げられる。つまり、「～ば」による最低条件は、専ら発話の焦点が前件にある場合に存在するが、「さえ～ば」による最低条件は、発話の焦点が前件にある場合が多いが、後件にある場合もある。

（25'）　「～ば」：誘導推論による最低条件（発話焦点前件限定）

「さえ～ば」：序列関係あっての最低条件（発話焦点位置不問）

五、「さえ～ば」と「～ば」の選択

では、産出の面を考えると、どうやって「さえ～ば」か「～ば」かを選択すれば良いのだろうか。

前述のように、発話の焦点が前件にある場合は、「～ば」でも「さえ～ば」でも最低条件を表すことができるため、「序列をなす複数の条件」の有無が判断のポイントになるのである。

例えば、経済学の本のキャッチコピーを考案する場合、次の 2 例を比べるとアピールしたいポイントが違う。

（28）これを読めばわかる！

（29）これさえ読めばわかる！

「この本を読めばすぐわかるよ」という「この本を読む」と「わかる」の直結、すなわち「この本の内容の分かりやすさ」にポイントを置きたい場合は、(28) のほうが的確である。それに対して、「この一冊だけ読めばわかるよ」という、「この本には必要な内容が全部入っている。(だからほかの本は要らない)」ことにポイントを置きたい場合は、(29) のほうが的確である。

（30）(非常食などのキャッチコピー)

水さえあれば食べられる！

？？水があれば食べられる！

(30) の場合は、非常食の便利さをアピールすることがポイントである。一般の料理なら、水や調味料、それから電子レンジやガス

臺灣大學學術期刊資料庫

コンロなど、複雑さの度合いの違いによる序列関係の条件が想像されている土台にあるから、「(この非常食は) 水さえあれば食べられる！」という「さえ～ば」を使用するモチベーションがある。「さえ～ば」を使わずに「水があれば食べられる！」をキャッチコピーにすると、文脈的に発話の焦点が前件にあるため、「水がなければダメ！」という誘導推測が働く。しかしそうすると、かえって「欠点」として想起されてしまい、宣伝への逆効果になるのである[13]。

このように、「(序列をなす複数の条件の中で) それだけで OK」ということをアピールするにあたっては、「さえ～ば」の使用が必要である。「さえ～ば」の後ろに「あとは／ほかには＋疑問詞＋でも／も」がくることがよく観察される、ということも、序列関係の条件が想像されている土台に踏まえた「最低条件＝それだけで OK」の体現であると言える。

(31) 寒くさえなければ、あとはどんなことでも辛抱します。
〈森田 1980:173、下線・波線引用者〉

(32) あなたさえそばにいてくだされば、ほかにはなにもいりません。
〈『日本語文型辞典』p.127、下線・波線引用者〉[14]

次のような文脈においても、「さえ～ば」と「～ば」の選択によっ

[13] ただ、「水さえあれば食べられる！」という最低条件「さえ～ば」の明示はさらに誘導推論を引き起こさないのかという疑問も生じる。本稿は次のように考える。「さえ～ば」は「～ば」と違って、「序列関係をなす複数の条件の存在」という前提がある。したがって、「さえ～ば」は「序列関係あっての最低条件」という意味が優先的に読み取られるのではないかと考えられる。もちろん、「さえ～ば」は「序列関係」の読み取りが先行してから、さらに (8) (9) の下線部で示されたように「誘導推論」の読み取りがあってもおかしくない。けれども、その二次的な読み取りはもはや意味の理解への支障にはならない。

ここまで考えてくると、改めて坂原 (1986) における「“さえ”は条件文の前件において、使われた条件が十分条件の中でも弱いものであり、もっと強い十分条件が存在することを強調する次の用法を持っている (p.155、下線引用者)」(注 2 を参照) という指摘が意味深く感じられる。「さえ～ば」は何を強調するのかというと、最低条件とか唯一の条件を強調するというより、むしろ「序列関係をなす複数の条件の存在」を強調するのである。

[14] 『日本語文型辞典』における「さえ～ば」の説明は、「あるものごとが実現すればそれで十分で、ほかはちいさなことだ、必要ではない、問題ではない、という気持ちを表す (p.127)」ということである。

臺灣人文社會期刊資料庫

て、話し手の発話の意味が違ってくる。

（33）太郎：努力すれば、成功するだろう。

花子：運があれば、成功するのよ。……①

運さえあれば、成功するのよ。……②

①の場合は、花子が「努力することが成功をもたらすわけではなく、好運こそが成功をもたらす」と主張し太郎の言い方を否定しているように聞こえる。②の場合は、花子が「努力することが成功をもたらす」ことを否定せず、ただ「努力ほど強くない条件」も存在して成り立つと主張している。つまり、「さえ～ば」の使用にはやはり「序列をなす複数の条件」の存在を意識しているのである。

六、まとめと今後の課題

「さえ～ば」は、前件が後件成立の「かけがえのない条件」であるかどうかの違いによって、二種類の状況が存在しており、どちらでも序列関係にある最下位の条件を意味するため、「最低条件」という用語で説明したほうが本質的である。「唯一の条件」という用語で説明されていると、その用語自体の定義によって誤解される可能性がある。

また、「さえ～ば」は「最低条件」を意味するが、「さえ」を含まない「～ば」条件文も「最低条件」を意味することがある。「さえ」を含まない「～ば」条件文は、文脈的に発話の焦点が前件に置かれる場合にだけ、誘導推論が働き「最低条件」と解釈されるため、間接的に「最低条件」が暗示される。それに対して、「さえ～ば」は発話の焦点が前件にあろうか後件にあろうか、序列関係をなす複数の条件あっての「最低条件」を指しているため、直接的に「最低条件」を明示する。つまり、「さえ」を含まない「～ば」条件文は（発話焦点前件限定の）「誘導推論による最低条件」を表し、「さえ～ば」は（発話焦点位置不問の）「序列関係あっての最低条件」を表すのである。

このように、文脈的に発話の焦点が前件にある場合は、「～ば」で

臺灣大學學術期刊資料庫

も「さえ～ば」でも最低条件を表すことができる。したがって、産出する際に、「さえ～ば」を使用する決め手は「序列関係をなす複数の条件が想像される」ことである。

今後の課題としては、「さえ～ば」とほぼ同義に解釈されることのある「だけ～ば」との違いを考察することを挙げておきたい。

【謝辞】本稿を作成する際に、広島大学の白川博之先生に議論に付き合っていただきました。また、審査委員の方々からも多くの助言をいただきました。感謝の意を表します。

【付記】本論文は、109 年度科技部研究計画案（109-2410-H-002-194-）による研究成果の一部分である。

【参考文献】

（日本語）

庵　功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

坂原　茂（1985）『日常言語の推論』東京大学出版会

坂原　茂（1986）「“さえ”の語用論的考察」『金沢大学教養部論集（人文科学編）』23-2、pp.127-158

寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

中西久実子・庵　功雄（2010）『日本語文法演習　助詞―「は」と「が」、複合格助詞、とりたて助詞など―』スリーエーネットワーク

日本語記述文法研究会（2008）『現代日本語文法 6　第 11 部　複文』くろしお出版

丹羽哲也（1995）「「さえ」「でも」「だって」について」『人文研究　大阪市立大学文学部紀要』47-7、pp.473-499

臺灣人學學術期刊資料庫

沼田善子（1986）「第 2 章　とりたて詞」『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社、pp.105-225
沼田善子（1992）『日本語文法セルフマスターシリーズ 5　「も」「だけ」「さえ」など―とりたて―』くろしお出版
沼田善子（2009）『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房
野口直彦・原田康也（1996）「とりたて助詞の機能と解釈―：量的解釈を中心にして」『日文研叢書 10　制約に基づく日本語の構造の研究』国際日本文化研究センター、pp.145-166
蓮沼昭子・有田節子・前田直子（2001）『日本語文法セルフマスターシリーズ 7　条件表現』くろしお出版
前田直子（1995）「バ、ト、ナラ、タラ―仮定条件を表す形式―」『日本語類義表現の文法（下）複文。連文編』くろしお出版、pp.483-495
森田良行（1980）『基礎日本語 2』角川書店

（中国語）
邢　福義（2001）『漢語複句研究』商務印書館

臺灣大學學術期刊資料庫